

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営尼崎西昆陽住宅	階数	地上8F
建設地	尼崎市西昆陽1丁目549番	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防	平均居住人員	227 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2022年10月3日
敷地面積	2,835 m ²	作成者	(株)三弘建築事務所 井上智
建築面積	675 m ²	確認日	2022年10月7日
延床面積	4,105 m ²	確認者	(株)三弘建築事務所 南口肇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 62%

③上記+②以外の 62%

④上記+ 62%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.6)

音環境	2.6
温熱環境	3.9
光・視環境	3.6
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.6)

機能性	2.0
耐用性	3.1
対応性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.1)

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 4.2)

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.0)

水資源	2.2
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.5)

地球温暖化	4.5
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>専有面積及び住居人数に合わせた異なる5タイプの住戸により様々な住居者のニーズに対応する。将来、車椅子利用に際し外部からのアクセス性と住戸内のバリアフリーを採用し世代を超えたユニバーサル仕様とした。</p>	特になし
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>道路に面してバルコニーを配し、十分な日照と通風を確保。内装材は全てF☆☆☆☆以上とし、シックハウスに配慮。</p>	<h4>Q3 室外環境 (敷地内)</h4> <p>敷地外周に多くの緑を配し敷地内及び敷地外環境に配慮。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>照明器具や給湯設備に関して設備の高効率化に配慮。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>建物と南側および東側道路との離隔距離を確保し、周囲への圧迫感、日影の影響を最小限に抑えた。</p>
<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>住棟内外および住戸内はバリアフリーとし、高齢者等へ配慮。</p>	
<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>躯体と仕上げ材は容易に分別可能。木材は県内産杉を使用。</p>	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される